

87 教育界にも必要な「インフルエンサー？」?!彼らは、今、どこに、どのように?!

堂本 彰夫

(1) 突破口としての「インフルエンサー？」の存在?!とりわけ、内部でのインフルエンサー?が鍵を握る?!

最近、頻繁に「インフルエンサー (influencer)」という言葉聞くが、恥ずかしながら、この間、その意味は、あまりよく分かっていなかった (最初、「インフルエンザ」と聞き間違えていた?笑!) ! 要は、メディア/ネット上で、強烈な自己主張や有用 (情動的?) な情報を発信する人がいて、他の人達が、そうした人達の言動に大いに影響を受けている?!端的には、「世間に与える影響力が大きい行動を行う人物のこと」であるらしい?! というような人達を「インフルエンサー」と呼ぶということであるが、ニュアンスとしては、従来の「指導者 (リーダー)」とか、「カリスマ」とかといった存在よりは、より親近感があり、しかも、自分の好みで選べる (だから多少軽い?) ?!その意味では、新しい形の「人間関係」と言えるのかもしれない?!

ちなみに、教育学の分野には、「意味ある他者 (significant others)」というような概念があるが、この「インフルエンサー」という言い方には、何か共通のものがあるようにも思える?!すなわち、その「意味ある他者」とは、「その人の身近にいて (親・兄弟等は除いて!)、生き方や役割取得において、何らかの影響を与えている人のこと」であるが、実は、この力、この人間関係は、少なくとも?これまでの人間社会 (コミュニティ) においては重要なものであった?!例えば、一緒にいて良かったとか、安心するとか、あるいは将来そういう人になりたいとか、一緒に仕事や活動をしたいとか、そういうことを感じさせる人の存在のことであるが、そういう人間関係が、まさに我々が生きている地域社会 (コミュニティ) には、陰に陽に組み込まれていた!その中で、大人や子供達の人間関係や役割取得の場が形成され、まがりなりにも、それは、プラスの方向で機能していた?!

しかしながら、現代社会は、便利になり、豊かにはなったものの、そういう人達、そういう人間関係が身近にいない、ない (それが、「近代化」の一側面でもある?) ?だから、メディアやネット上で、そういう人達を探す、見つける?!そういう、ある種複雑な (淋しい?) 人間関係を求めているのかもしれない?!しかも、そこには、確実に「虚々実々の世界」が蠢いている!そこが、何とも悩ましいが、とは言え、その力は、計り知れないものがあることは言うまでもない (半分本気であるが、現下のコロナ禍において、今、何をなすべきなのか!本気で伝えてくれる「インフルエンサー」が欲しいものである!特に、「若者」に対して!) ?!

ところで、多少強引ではあるが、この場合の「世間」を「教育界」(というよりは、その「実践現場」という言葉に置き換えてみると、その中に、そうした「インフルエンサー」とか、「意味ある他者」とかと呼べる人達 (教師) が、一人でも多くいれば、新たな突破口が見えてくるのかもしれない?!「多忙」や「憔悴」を極める?今の実践現場において、そのようなことを望むのは、甚だ理不尽だという人も多々いるであろうが、従来の「管理職 (校長・教頭等)」やミドルリーダー (各種主任等) ではない (もちろん彼らも含まれてよいが!)、新しい存在としての、「インフルエンサー」とか、「意味ある他者」とかという存在が、改めてクローズアップされてくるということである (と言うのも、従来の管理職/リーダー制には、一種の制度疲労?が生じているからでもある!) ?!

そんな中、今回頼もしい人、そして、その人が創り出していった、人と人との新しいつながり、その行動の仕方を知る (確認?) することが出来た!それは、先日行った第26回「教育協働セミナー」でのことであるが、高知県のNさんという、再任教員 (教頭経験者) の存在とその取り組みであった。詳しい紹介は、残念ながら、ここではできないが、彼女は、例の「総合的な学習の時間」を核とした授業実践者であり、その関係の、各種プログラムを、子ども達と、そして、地域の人達と一緒に創り上げていった、一人の教師である!彼女はまさしく、ここで言う「インフルエンサー」であり、「意味ある他者」であった (否、ある!) ?!

(2) 「教員免許状更新講習」への最後の協力?!実際、教師達は、「体験活動」に関わって) 何を求めているのか?

さて、こうした中で、今年度もまた、国立沖縄青少年交流の家の「教員免許状更新講習」(~自然体験活動から子供達の生きる力を~) に行くことになっている。期日は、8月4日 (水) ~6日 (金) <予備日: 9月18日 (土) ~20日 (月)>であったが、私の出番は、最初のコマ (4日→しかし、結局、予備日に移行してしまった!) の「生涯学習社会における学校教育・社会教育」である。主旨としては、「急激な社会変化へ対応するための生涯学習社会構築の必要性と学校教育・社会教育の役割、教員に求められているものは何かを学ぶ」とある。ちなみに、このコマは、「教科指導・生徒指導その他教育の充実に関する事項」(選択領域18時間) の「教育の課題に関する理解」(2時間) というコマで、他に (こちらの方がメイン!) 「体験活動に関する理解」(2時間) と「体験活動に関する技能の習得」(13時間) のコマが組まれている (1時間が「履修認定試験」)。

もちろん、受講者達は、「体験活動」に興味・関心をもち (渡嘉敷島の魅力も含めて!)、この講習に参加予定しているわけであるので、ある意味私のコマは、「刺身の妻?」であるわけであるが、そこに、「生涯学習社会における学校教育・社会教育」というコマを最初に入れてきているということは、主催者側の深い (正当な?) 思いが込められていることは言うまでもない?!やはり、そこがないと、社会教育施設としての「国立青少年教

育施設（青少年交流の家）」が実施する意義が半減する（私は、そう思って、このことを秘かに？評価し、協力もしてきているわけである！）？！

ただし、多少違和感？があるのは、かなりマンネリ感が漂っている？「急激な社会変化へ対応するための生涯学習社会構築の必要性」という枕詞？である（フレーズとしては、随分前から使用されている？）？！本質的には、そういうことではあるので、それを了解してやる他ないが（受講者に、それが、新鮮だと思ってもらえるかどうかは、甚だ心配ではあるということである？）、もう少し、今現在の具体的な課題意識の下で、それをアピールすることが出来れば、さらによいのではないかと思っているわけである（例えば「地域学校協働活動」とか、「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメント」とかに関わらせて！）！

とは言え、私自身は、この国立沖縄青少年交流の家の「教員免許状更新講習」への協力を何年続けているのか、正確には覚えていないが（5年位？）、もうそろそろ卒業？ということを考えてはいるので（何故なら、あまり最新の情報を持ち得ていない、否、その努力もしていない？）ので、受講者には、大変申し訳ないと思うからである！）、そうした課題意識への対応等については、次の人達への申し送り？事項ということになるのであろう？！

なお、本講習（免許更新講習）は、平成21年度から始まったわけであるが、10年毎の更新期間であるので、2回目の受講という人も多々いるようである！与えられた制度とは言え、何か複雑な思いではあるが、今回も、件のコロナ禍の下であるので、受講者数は少ないようである（総勢12名）！主催側も、受講側も、そして私も、仕方がないが、それに応じて動く他ない！やはり、大変な（私以外は？）事業なのである！

(3) 改めて、「生涯学習社会の構築」には、学校教育関係者（教員）の正しい理解と動き方が求められる！

いずれにしても、本講習においては（どの講習においても、同じか？）、受講者のニーズと主催者・講義者の思い（伝えたい内容）がクロスオーバー（交差）しなければ、あまり意味はない（特に、「選択科目」においては？）？！もちろん、私の方の思い（伝えたい内容）は、当初から変わらないのであるが（言うなれば、まさに「教育協働」への思い！）、彼らが、それに、どのように呼応するのかである（とりわけ、私の最初のコマに？→あくまでも「自然体験活動」がメインの彼らである？）？！

ということで、そこでは、改めて、「生涯学習社会の構築」には、学校教育関係者（教員）の正しい理解と動き方が求められるということになるが、まずは、彼らが、それについて、どのようなイメージ、どのような理解を有しているのか、そこが問われることは言うまでもない！まさに、本音の部分が知りたいということでもあるが、それについては、今年もまた、受講者の事前課題意識調査の回答結果を送ってもらっているのだから、彼らの思いやニーズを知ることは出来る？！以下が、それである。

学ばせていただきます／現代の社会に対応した人材・技能を育ていけるような教育やその方法／学校教育も社会教育も社会に役立っているとは思いますが、IT化が進み、自然体験活動が減って生きているように感じる。もっと自然体験を生涯学習に取り入れるにはどうしたらよいか／児童生徒が生涯にわたって主体的に学び続けるために必要な基礎的な学力の具体例と指導例の紹介／学び続けていく姿勢を維持しようとする中で、自身に適した方法をうまく見つけられずに、体の不調を起こしてしまう場合もあるように思う。子どもたちだけでなく生涯にわたるテーマとして講義を聴けたらと思う／情報化・IT化による現代における生涯学習とは／多様化社会における自己有用感を高める指導や、課題解決能力の育成等／学校では、生涯学習に役立てるため、どのようなことを教えていけばよいのか知りたい／生涯にわたり学び続けていこうとできる子どもをつくるために、どんなことを具体的にやっていけばよいのか。教員として心がけていかなければいけないこと等を学びたい／生涯学習において、体験活動の有用性なども学びたい。

以上であるが、なかなか広範なニーズ（要望）である？！どこまで彼らのニーズ（要望）に応えられるかは、甚だ心許ないが（本音の部分も含めれば？）、他方では、その前提にある「生涯学習社会における」という枕詞？のイメージ（概念・定義等を含む）が、どのようにあるのかということが問われることは言うまでもない？！しかし、残念ながら、そのことは、ここでの表現からだけでは、なかなか分からない（大別すれば、二つか？→子どもにとっての課題と学校や教師にとっての課題？）？！

ただし、上記のニーズ（要望）は、最近の大きなテーマである「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」、そして、「地域学校協働活動（「CS」や「地域学校協働本部事業」等）」というようなものに直結する部分もあり、後は、それらを、いかに私が、上手く繋げられるかということであろう？！そして、ここが重要であるが、彼らが、そのことを、これからの教育実践において、いかに生かしていつくれるかである？！そう、彼らにも、「インフルエンサー」とか、「意味ある他者」とかというものになって欲しいのである（出来れば、「社会教育士」と名乗る教師が出て来ないものか？）？！出でよ！「眠っているインフルエンサー」！躊躇している「意味ある他者」！「働き方改革」とは、単なる労働時間の長さ（そして、そのことを、お互いが牽制し合う）ではないはずである？！教師としての仕事の仕方（苦労も多いが、喜びもある？）、そこが、改めて問われるのである？！そのことは、いみじくも、先の高知県のNさんが、さりげなくではあるが、大いに示してくれていることでもある？！